～外来リハ通信～

2009.12

2009.11.21（土）13:30～16:30 に第２回リハビリテーション技術講習会を水俣病情報センターで開催しました。

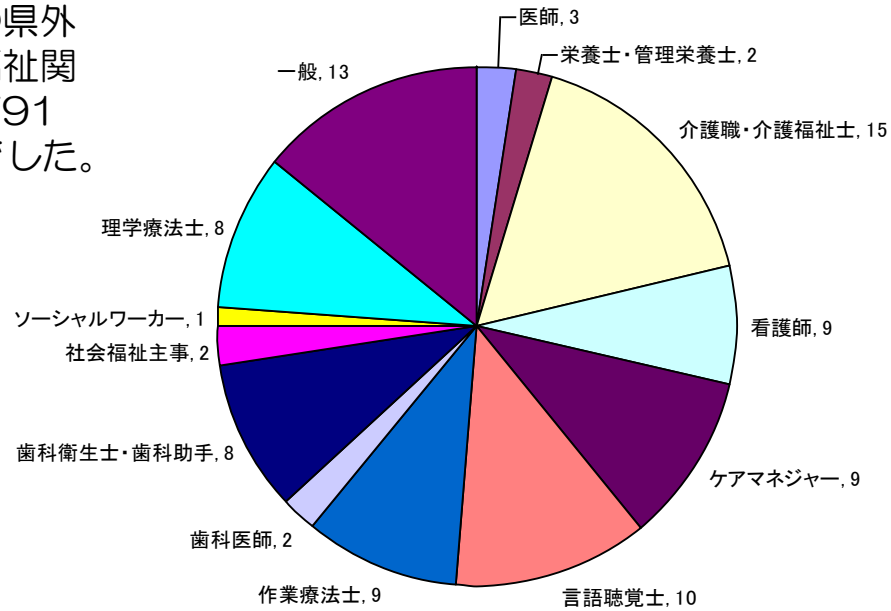
今回のテーマは・・・

『摂食・嚥下のリハビリテーション』

講師は、４月の介助技術講習会で好評だった日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授、植田耕一郎先生です。
植田先生は、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会の理事で、口腔ケア・リハビリテーション分野の第１人者です。

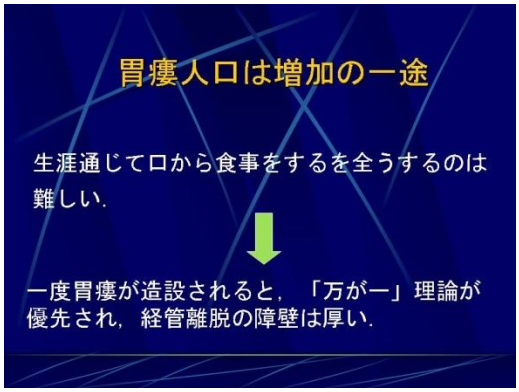
今回は、摂食・嚥下の評価、ケーススタディ、疾患別のリハビリテーションの実際など、前回の介助技術講習会より専門的な内容のお話で、摂食・嚥下のリハビリテーションにとどまらず、認知症の方や終末期への関わり方まで幅広くお話していただきました。

天草や阿蘇といった遠隔地や県外からの参加もあり、医療・福祉関係の専門職、一般の方々まで91名が受講し、今回も大好評でした。



参加者内訳

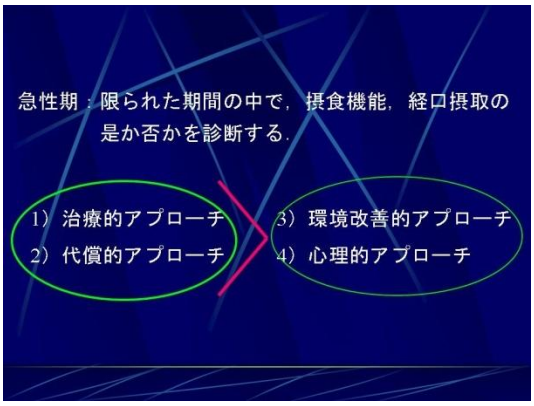
それでは・・・今回の講演の内容を一部ご紹介いたします！



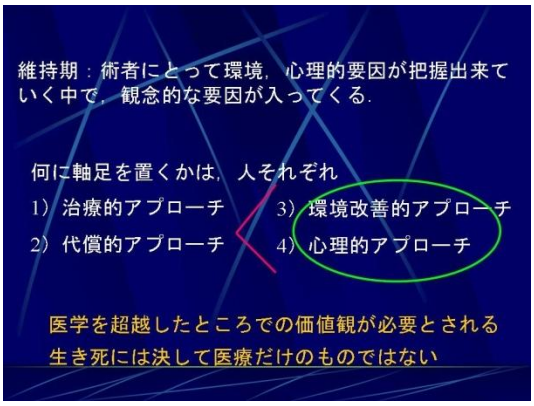
口から食べ物を摂ることができず、胃瘻を作っている方は増加の一途だそうです・・・

だからこそ！
摂食・嚥下のリハビリテーションは重要なのです！

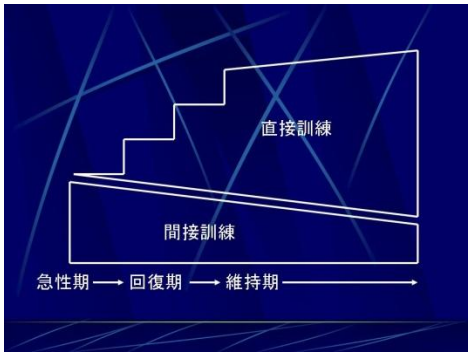
そうはいっても・・・・
病気の経過によってその時期に適したリハビリテーションがあるのです。



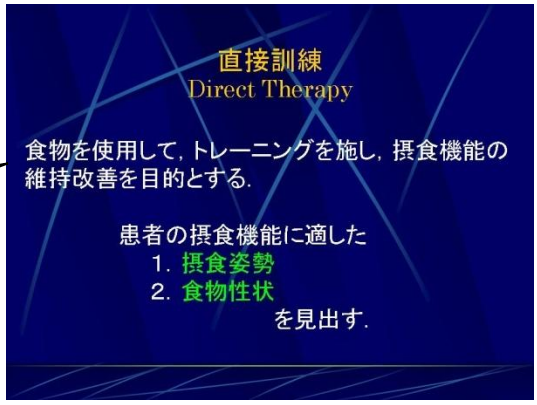
急性期のアプローチ



維持期のアプローチ



維持期では、より直接訓練による
リハビリが重要になってきます。



直接訓練とは、実際に食べて訓練すること！
そのためにはまず、安全に食するための症状に即した姿勢と食べ物の性状を見出すことが大事なのです！

考えさせられる内容のお話が多く、講習会終了後のアンケートでは、
「生きること、という意味でも勉強になった」
「人間らしさ、あるべき姿が伝わってきた」といった声が聞かれました。

国立水俣病総合研究センター
NIMD